http://www.news.janjan.jp/election/0801/0801158967/1.php

この度は、リレーエッセイ『忙中閑話』に、寄稿させて頂く機会を頂戴できたことを心から感謝申し上げます。いったいどんな方が、どんな事情で、この文章を読まれるに至られたのか分かりませんが、しばらくのお付き合いをよろしくお願い致します。

あるいは業界の方が御覧になるのを前提にすると、ここはひとつ、なにか立派なことを書かなくてならないのかな、とも思うのですが、例えば来春、政令指定都市になる岡山市の選出の県議会議員として、今何を考えているのか？あるいは、昨年の参議院選挙の「姫の虎退治」の顛末で、ある意味、全国に恥を晒した我が県において、自民党県連青年局長として、党再生のために何を取り組んできたか？等々のテーマが、果たしておもしろいのか？は、疑問です。

いずれにしても、愚痴っぽくなって、書いてみても、私自身がおもしろくなさそうで、ならば、読まれる方はなおさらだろうと思い、止めておきます。理屈っぽい崇高な文章や、少なからず他の議員を気にしなくてはいけない話は、また別の機会にしたいと思います。

なにより、これから行う机上の議論であるようなマニフェストよりも、マニフェストを掲げないままに、人間社会の中で、実際に起きてしまった現実の方が、遙かに奇妙で感動的でおもしろいということもあるということをお伝えしたく思います。ある意味、大切なのは、結果もさることながら、結果に至る過程の感動かもしれません。今後、感動のあるローカル・マニフェストを作りたいものです。

そこで敢えて、今回は、「落書き」をテーマに岡山県の取り組みについて書かせて頂きます。取り組みと言うよりも、行き当たりばったりでいった結果として、たまたま生じた奇跡の軌跡かもしれません。そこに深い理念はなく、あとから理屈はついてきました。

２０００年9月定例会の一般質問で、私は、「落書き追放」をテーマに掲げました。私は中心市街地を地元にしていますが、当時から、爆音暴走族・落書きやゴミは、深刻な都市問題でした。大きな街には大きな孤独ではないですが、都市化に伴い、マンション等の人口増にかかわらず、地域コミュニティが幾分弱まって行く中で、抜本的な解決をなしえずにいました。

特に、落書きについては、仮に落書きされた個人が消去しても、そこに再び落書きされてしまったという体験は、むしろ、犯人に「復讐」されるという恐怖感になり、結局は放置され、後に理論づけた「割れ窓理論」に沿えば、そこから被害が拡大し、為す術がな

い状態でした。

商店街では、数十万円、数百万円かけてシャッターを新調した翌朝には、落書きがされているという、犯罪以外の何物でもない事態も発生しました。

にもかかわらず、器物損壊罪の現行犯逮捕しかできない警察は、四六時中監視するわけにも行かず、交番の周辺にすら落書きが蔓延るのを野放しにしている感もありました。いわゆるスラム街とは言いませんが、落書きの急増は、体感治安の悪化そのものを意味しました。

それに対抗するのは、岡山ガーディアンズさんだけで、鉄柱や公衆電話の違法ビラをはがしながら、地道に小さな落書きを消去されていました。ただ、いわゆる私有物に対しては、被害者が動かない限りなかなか消去することはできませんでした。

２００１年１２月定例会では、「岡山県快適な環境の確保に関する条例」が制定され、全国にも先進的な落書き、空缶ポイ捨て、自動車･自転車の放置、光害を禁止行為とするものとし、特に、第2章「快適な環境の確保の促進」のうち、第1節が、「落書きに対する措置」で、(落書きの禁止)は、第7条に、「何人も、落書きを行ってはならない」と規定しました。そして、第２８条で、「第7条の規定に違反した者は、5万円以下の罰金に処する」として、刑法の「器物損壊罪」に該当しない軽微な落書きを取り締まりの対象としました。

ただしかし、私が議会で申し上げていた、犯人に原状回復義務を課することはできず、取り締まりの強化に過ぎなかったのは事実です。犯人が仮に捕まっても落書きは消えはしないのです。

条例施行を4月1日に控えた２００２年3月、そこに事件が起きました。私のお隣の町内のお寿司屋さんの白い壁に、ついに、巨大な男性器の落書きがなされたのです。こういう場には書きにくいのですが、それは見事なもので、「男はぶっとくなけりゃ」という言葉があり、「どぴゅっ」という言葉とともに、敢えて言うと、射精している･･･とんでもない落書きでした･･･。5mに及ばんとする、その何を見ながら、会社員やＯＬ、しかも、県庁職員は通勤しますし、夕方からは、子ども達が塾に通っています。幾らなんでもこれは無茶苦茶だと、岡山ガーディアンズさんのお力も借りて、隣の町内に、落書き消去に遠征しました。残すこと自体が、岡山の恥曝しで、消す以外何も考えられなかったのです。特に、それからしばらくしてそうなったのですが、当時、そのお寿司屋さんは閉店を計画

されており、被害者が塗り直しを考えておられなかったので、素人だろうがなんだろうが、ホームセンターで、一斗缶のペンキと刷毛を買ってきて、似たような色で、上から落書きを塗りつぶす以外に、もはや手法がなかったのです。

あんまり腹が立って情けないので、被害の状況を報道して貰うため、マスコミに来て貰い、大々的に取り上げて貰いました。これが、その後の落書き消去の基本型になろうとは･･･。

それにしても、さすがにこの落書きには、我々もぶち切れて、いったいこの岡山市内中心部に、どれだけの落書きがあるのか？実際に調査してみようという話になり、そこに、「落書き調査隊」が生まれたのです。ただ、当初は、とりあえず調査して発表しようということでした。そこで、我が平和町北部町内会に3人いる副会長の一人を落書き調査隊長に、また副会長の一人である私も、副隊長に就任？し、事実上は、隊長、副隊長のほとんど思いつきで、行動を始めました。

3月２３日、初めての落書き調査活動が行われました。マスコミの関心は極めて高く、ここから先の落書き調査隊の活動は、非常に好意的にマスコミが大々的に報じてくれました。

そして、施行日の前日、3月３１日午後１１時３０分。マスコミも注目で、今から思うと、警察もノリノリで、条例の適正な運用と実効を図ることを目的として、県下各署の警察官約２００名体制で施行当日の取締りを行うこととし、出発式も敢行。2名1組に別れ、落書きが予想される場所（！）の警戒取締りにあたるということで、最初に世間から血祭り？に上げられる、条例施行後最初の落書き犯人の逮捕を誰もが待ち望んだのでした。「落書き犯人を捕まえるぞ～！！オー！！」という雰囲気は、切実な問題にもかかわらず、どこか楽しくもありました。

一方、落書き調査隊は、とりあえず、4月２０日に、地元の平和町北部町内会で落書きを消去。4月２５日には、調査データをもとに、「『落書き』の実態と今後の対策について考える会」を開催することにしました。当然のことながら、地域の方の関心は高く、多くのご来場が予想され、同時に隊長･副隊長で、「まずいな～。」と思うようになりました。････実態を報告しても、町内会で他所の落書きまでは、消しにはまわれんぞ、だいたいお金もないし･･･ともかく、調査しただけでは、落書きは消えないのです。そして、当日、私は、構想をぶち上げました。「ここに来ている方、全員で消しましょう！！」つまり、「落書き『一斉』消去活動」は、苦し紛れに出た発想でした。会合の結論はそれ以外あり

得なかったのです。しかし、それが、街づくりそのものなんだとすぐに気がつきましたが。もはや、被害者のみならず、街ぐるみで、全員で対策を練る以外に無かったのです。

そして、5月26日、「オランダ通り『落書き』一斉消去活動」が行われ、なんと100人以上が参加。地元、商店街、PTA、ボランティア、さらには、行政、警察までが連携した街づくりのイベントの様相を呈しました。6月20日、待望の犯人「NAPPIE」逮捕。才能のあるアーチストであり、その落書きの量は、かなり大物でしたが、しかし、原状回復義務がないため、彼の落書きは、街の至るところに残りました。

そして、夏休み最後の8月31日の「第2回市内中心部『落書き』一斉消去活動」は、石井岡山県知事まで消去活動に参加されて、参加者は、150人を超えました。以来、知事は、かなり落書き消去を好まれているようで、「落書き防止条例（そんな条例名ではないのですが・・）」をかなり誇りに思っておられ、方々で話されています。おそらく、地域の子ども達にとっても、地域を愛する契機となる資源として、落書きという犯罪を昇華することが出来たのだと思います。また、安全安心のまちづくりの中で、落書き対策は、ひとつの経験となり、さらなる課題になっているかもしれません。

これが、かの有名な？岡山の「落書き調査隊」の創世記です。理屈は幾らでもつけられますし、後の事も、細かく書こうと思いましたが、勿体ないので辞めておきます。多くの感動や、地域対策等を含めて、経験則からつかんだノウハウもあるのですが、ここではちょっと。問い合わせも、面倒なので、受け付けません。

その後、2003年5月には、NHK総合の新番組『難問解決！ご近所の底力』の第1回放送で、「大迷惑・町の落書き」というテーマに、落書き調査隊長が出演。地道に活動を展開しながら、各地、各団体に、落書き消去の輪は広がり、2005年2月には、世界初の「落書き対策の手引き」もでき、「晴れの国おかやま国体」を前にした8月には、連合町内会を巻き込んだ全県展開の1700人体制の世界最大の「落書き消去大作戦」が行われました。思えば、あの今は無きお寿司屋さんの落書きが、岡山を落書き消去の街にしました。ただ、相変わらず、落書きは多いので、岡山には落書きがないのではありませんが。

ところで、消去活動にかかる費用等は、大きな負担でありましたが、県との半分の補助から、さらには、今年度から、市と折半の現物支給になっています。つまりは、市民は、自らの手で、被害者の止まることなく、拡大を防ぐべく公費負担するので、落書きを消す責務もあると言えると思います。今年度は、12月現在、既に市の予算は消化しき

ったようです。このあたりは、他の議会の方々も、どうか頑張って下さい！

現在また落書きは急増中で、市内中心部を席巻する勢いです。また、落書き調査隊の出番です。

県議会議員としてよりも、落書き消去ボランティアで評価されるのは、ちょっとしゃくに障りますが、議員としても、地域や職員の方々と実際に汗をかきながら、制度創設をしてきた自負もあります。ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟の監事なのですが、多分、美しいパンフレットや街頭演説で、「落書きを減らします」という、マニフェストを掲げただけでは、落書きは決して減りはしないのですが、地方議員は地方議員のやり方で出来ることがある、そのことを信じています。数値もさることながら、過程の感動が大切なように思います。私が行政にやらせました、というのではなくて、市民や行政と協働で、議員が実践できる、そんな感動のあるローカル・マニフェストを作りたいですね。

岡山県議会議員・佐藤真治

(早稲田大学マニフェスト研究所)
◇２００６年8月１１日掲載、福田紀彦・神奈川県議会議員（北京の蝶々が羽ばたくところの土壌を変える）からのご紹介です。

■プロフィール
さとうしんじ――昭和３９年岡山市生まれ。岡山県立岡山一宮高等学校（第1期生）、早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、岡山リビング新聞社（営業部）、逢沢一郎代議士秘書を経て、平成１１年　岡山県議会議員選挙初当選（以降３期連続）。現在、岡山県議会行財政改革・道州制等特別委員会委員長、自民党全国青年議員連盟政策審議会副会長、自民党岡山県連青年局長などを務める。趣味は落語、映画鑑賞、ガチャポン、観光地・駅等のスタンプ集め。
佐藤議員の政治家情報ページはコチラ

◇

「ザ・選挙」では、早稲田大学マニフェスト研究所、ローカル・マニフェスト推進首長連盟、ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟の協力を得て、全国の現職議員と長の皆様のリレーエッセイ【忙中閑話】を掲載いたします。